

砂浜の利活用の更なる促進に向けて(提言) 概要

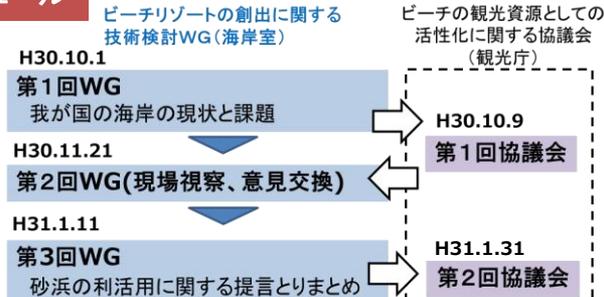
～地域に根ざし、グローバルに拓けた「ビーチリゾート創出」を目指して～

ビーチリゾートの創出に関する技術検討ワーキンググループメンバー

(○は座長、敬称略)

- 佐藤 慎司 東京大学 工学系研究科社会基盤学専攻 教授
- ・ 楓 千里 株式会社JTBパブリッシング エグゼクティブ・アドバイザー
- ・ 桑子 敏雄 一般社団法人 コンセンサス・コーディネーターズ 代表理事
- ・ 三浦 大介 神奈川大学 副学長
- ・ 矢ヶ崎 紀子 東洋大学 国際観光学部国際観光学科 教授

スケジュール



ビーチリゾート創出のための3つの柱

①防災と海岸利用との調和

- ・津波避難施設等の防災施設の整備の際には、平常時利用も考慮することが重要

津波避難タワーの活用例(伊豆市)

災害時

- ・海水浴客等の避難施設

平常時

- ・カフェ、イベント、海水浴客の休憩所等

- ・安全な砂浜の利用のためにも、侵食対策等の防災対策が重要

- ・離岸堤による静穏な水面、安定した砂浜の創出等

②公共空間としての海岸の使い方の工夫

防災上の影響を考慮した上で、

- ・地域の実情・ニーズを踏まえた砂浜利用の柔軟な検討が必要(通年利用や占用期間の延長等)

- ・海岸の管理の一部を都道府県から市町村へ委譲できる規定の活用も期待

- ・地域住民と一体となった役割分担のもとで、日常的な清掃等きめ細かに砂浜を管理

③地域と一体となった取組

- ・地方公共団体、地域住民、民間等が一体となった取組が必要

背後地と一体となった海岸保全施設の整備例

海岸管理者

- ・海岸堤防の整備

市町村等の取り組み

- ・道の駅の整備(市町村)
- ・道路のかさ上げ(道路管理者)
- ・BRT道路の整備(事業者等)



3つの柱について、はまツーリズム推進プロジェクト等を通じて支援